レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2026年 4月 1日

三谷建設株式会社　生コン工場
福山市赤坂町大字赤坂字鹿田1642-2
TEL （代表）084-951-1254
（工場直通）084-952-0487
配合計画者名　河野　秀和

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月10日、9月21日～12月10日左記以外の期間については、備考欄に記述（標準配合）
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	使用区分２号

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ －
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	－	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－ 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	－％		

使用材料

セメント	生産者名	株式会社トクヤマ	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％ －
混和材②		－		－		－	

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	密度 g/cm³ 表乾	微粒分量の範囲％
細骨材	①	砕砂	大分県津久見市上青江胡麻柄山系	A	モルタルバー法	5以下	2.69	2.62	2.65	3.0±2.0
	②	海砂	佐賀県唐津市呼子町小川島海域	A	化学法	5以下	2.20	2.52	2.56	－
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石1505	広島県福山市瀬戸町	A	モルタルバー法	15-5	6.35	－	2.65	0.5±0.5
	②	砕石2010	広島県福山市瀬戸町	A	モルタルバー法	20-10	6.95	－	2.65	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	ｼｰｶ ﾎﾟｿﾞﾘｽ 15L	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq ％ 0.7
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	①0.00％ ②0.01％	水の種類	上澄み水・地下水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ ％
回収骨材の使用方法	細骨材 －	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
330	－	－	175	313	453	－	399	598	－	－	2.310	－	－

水セメント比	53 ％	水結合材比	－ ％	細骨材率	43.9 ％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比（容積混合）	細骨材①:② 40.0:60.0 粗骨材①:② 40.0:60.0

修正標準配合として次に示す期間の間、混和剤の単位量のみ変更
夏期6月11日～9月20日Ｃ×0.9％使用、冬期12月11日～3月10日Ｃ×0.6％使用

配 合 計 算 書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	－	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	－%		

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v ＝ 10　%

(2)配合強度(m)

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 33.8 \ N/mm^2$$

よって　m ＝ 33.8　N/㎟

(3)水セメント比(W/C)　m ＝ -15.6 ＋ 26.3 × C/W

W/C ＝ 26.3 ÷ (33.8 ＋ 15.6) × 100 ＝ 53 % ≦【55%(上限値)】

∴W/C ＝ 53　%

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W ＝ 175　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　C ＝ W ÷ (W/C) × 100 ＝ 175 ÷ 53 × 100 ＝ 330　kg/m³

Cv＝ C ÷ 密度 ＝ 330 ÷ 3.04 ＝ 109　L/m³

(6)空気量(A)　　A ＝ 4.5 % × 1000 ＝ 45　L/m³

(7)細骨材率(s/a)　　当工場の実績により　s/a ＝ 43.9　%

(8)単位細骨材量(S)　Sv ＝ (1000 － (W＋Cv＋A)) × s/a ＝ 671 × 43.9 % ＝ 295　L/m³

S1 ＝ Sv × 40.0 % × 表乾密度 ＝ 295 × 40.0 % × 2.65 ＝ 313　kg/m³

S2 ＝ Sv × 60.0 % × 表乾密度 ＝ 295 × 60.0 % × 2.56 ＝ 453　kg/m³

(9)単位粗骨材量(G)　Gv ＝ 1000 － (W＋Cv＋Sv＋A) ＝ 1000 － 624 ＝ 376　L/m³

G1 ＝ Gv × 40.0 % × 表乾密度 ＝ 376 × 40.0 % × 2.65 ＝ 399　kg/m³

G2 ＝ Gv × 60.0 % × 表乾密度 ＝ 376 × 60.0 % × 2.65 ＝ 598　kg/m³

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad ＝ C × 添加率 ＝ 330 × 0.700　% ＝ 2.310　kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
330	－	－	175	313	453	－	399	598	－	－	2.310	－	－

水セメント比	53 %	細骨材率	43.9 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②　40.0:60.0 粗骨材①:②　40.0:60.0

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2026年 4月 1日

三谷建設株式会社　生コン工場
福山市赤坂町大字赤坂字鹿田1642-2
TEL （代表）084-951-1254
（工場直通）084-952-0487
配合計画者名　河野　秀和

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	6月11日～9月20日 (修正標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	使用区分２号

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ －
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	－	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－ 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	－％		

使用材料

セメント	生産者名	株式会社トクヤマ	密度 g/cm³	3.04	Na₂Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na₂Oeq ％	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	密度 g/cm³ 表乾	微粒分量の範囲％
細骨材	①	砕砂	大分県津久見市上青江胡麻柄山系	A	モルタルバー法	5以下	2.69	2.62	2.65	3.0±2.0
	②	海砂	佐賀県唐津市呼子町小川島海域	A	化学法	5以下	2.20	2.52	2.56	－
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石1505	広島県福山市瀬戸町	A	モルタルバー法	15-5	6.35	－	2.65	0.5±0.5
	②	砕石2010	広島県福山市瀬戸町	A	モルタルバー法	20-10	6.95	－	2.65	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	ｼｰｶ ﾎﾟｿﾞﾘｽ 15LR	種類	AE減水剤(遅延形Ⅰ種)	Na₂Oeq ％ 1.2
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	①0.00％ ②0.01％	水の種類	上澄み水・地下水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ ％
回収骨材の使用方法	細骨材 －	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
330	－	－	175	313	453	－	399	598	－	－	2.970	－	－

水セメント比	53 ％	水結合材比	－ ％	細骨材率	43.9 ％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比（容積混合）	細骨材①:② 40.0:60.0 粗骨材①:② 40.0:60.0

配 合 計 算 書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	－	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	－%		

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v ＝ 10　%

(2)配合強度(m)

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 33.8 \ N/mm^2$$

よって　m ＝ 33.8　N/㎟

(3)水セメント比(W/C)　m ＝ -15.6 ＋ 26.3 × C/W

W/C ＝ 26.3 ÷ (33.8 ＋ 15.6) × 100 ＝ 53 % ≦【55%(上限値)】

∴W/C ＝ 53　%

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W ＝ 175　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　C ＝ W ÷ (W/C) × 100 ＝ 175 ÷ 53 × 100 ＝ 330　kg/m³

Cv＝ C ÷ 密度 ＝ 330 ÷ 3.04 ＝ 109　L/m³

(6)空気量(A)　A ＝ 4.5 % × 1000 ＝ 45　L/m³

(7)細骨材率(s/a)　　当工場の実績により　s/a ＝ 43.9　%

(8)単位細骨材量(S)　Sv ＝ (1000 － (W＋Cv＋A)) × s/a ＝ 671 × 43.9 % ＝ 295　L/m³

S1 ＝ Sv × 40.0 % × 表乾密度 ＝ 295 × 40.0 % × 2.65 ＝ 313　kg/m³

S2 ＝ Sv × 60.0 % × 表乾密度 ＝ 295 × 60.0 % × 2.56 ＝ 453　kg/m³

(9)単位粗骨材量(G)　Gv ＝ 1000 － (W＋Cv＋Sv＋A) ＝ 1000 － 624 ＝ 376　L/m³

G1 ＝ Gv × 40.0 % × 表乾密度 ＝ 376 × 40.0 % × 2.65 ＝ 399　kg/m³

G2 ＝ Gv × 60.0 % × 表乾密度 ＝ 376 × 60.0 % × 2.65 ＝ 598　kg/m³

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad ＝ C × 添加率 ＝ 330 × 0.900　% ＝ 2.970　kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
330	－	－	175	313	453	－	399	598	－	－	2.970	－	－

水セメント比	53 %	細骨材率	43.9 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②	40.0:60.0
					粗骨材①:②	40.0:60.0

備考